

【生団連通信 Vol.7】

令和元年台風第15号・19号 被災地に関するレポート

第7弾は、今もなお厳しい状況が続いている台風15号、台風19号の被災地の状況について。

2019年9月・10月に発生した「令和元年台風第15号・19号」により被災されました皆様、そして今も不便な生活を強いられている皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

さて、かねて生団連に対し災害や被災地の情報のご提供をいただいている【特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム】様にて整理された「被災者支援進捗報告」について共有させていただきます。台風15号からは2か月超、19号からは1か月超が経過した現在でも、被災地では厳しい生活を強いられています。詳細は添付資料をご確認ください。

Webサイト：<http://www.japanplatform.org/>

また、被災地の現状をもっと知ろうと、この度生団連に入会いただく【一般社団法人 ピースポート災害支援センター】様が支援活動をされている福島県いわき市へ行ってまいりました。

ピースポート災害支援センター様では、およそ5,000軒が床上浸水という大きな被害にあったにも関わらず、支援の手が行き届いていない福島県いわき市に常駐され活動を行っています。現地の状況や活動内容については以下リンク先をご確認ください。

- 忘れられた台風19号の被災地、福島。厳しい冬を前にボランティア足りず <https://hbol.jp/206099>
- 【台風19号支援 福島】一人でも多くの支援の手が必要です <https://pbv.or.jp/?p=24290>

いわき市の被災地では河川の氾濫・越水による被害状況の深刻さを目の当たりにしました。大人の背丈ほどの床上浸水があった家屋が約5,000軒。住居の1階にあったであろう家具や家電製品、コンロ、壁の裏にあったであろう断熱材などの災害ゴミの山が、あらゆる場所に高く積み、とある公園は満杯状態でした。

これから本格的な冬を迎える被災地では、罹災証明の発行も遅れ、再建にどれだけ時間とお金がかかるか分からず、不安な日々が続いているようです。被災地・被災者への生活支援はまだまだ時間を要するものと痛感いたしました。

千葉県富津市でのボランティア活動に続き、被災地の現場を見てきた事務局としては、重点課題の1つとして取り組む「災害情報ネットワーク」および物資支援スキーム「生団連サプライ」の構築を急がねばならないと強く感じました。

被災者・被災地の必要とするモノを、必要な時に、必要なだけ届けることを目指して、災害支援団体の皆様、そして企業の皆様と協力をしながら進めてまいります。自然災害は待たなしでやってきてしまいます。被災地に寄り添った支援について、引き続き検討を進めてまいります。

有事の際には、物資やサービスについての支援をご検討いただき、被災地の復興にお力添えくださいますよう、この場を借りてお願い申し上げます。